

平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社 精工技研
 代表者名 代表取締役社長 上野昌利
 (コード番号 6834)
 問合せ先 管理部長 齋藤祐司
 (TEL. 047 - 388 - 6401)

平成 30 年 3 月期 第 2 四半期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表した平成 30 年 3 月期 第 2 四半期(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)の連結業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期 第 2 四半期連結業績予想と実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	1 株当たり 四半期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,250	350	450	500	54.15
実績(B)	6,721	450	484	540	58.52
増減額(B)－(A)	471	100	34	40	—
増減率(%)	7.5	28.7	7.7	8.2	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	6,260	656	666	425	46.10

2. 差異が生じた理由

売上高につきましては、電子機器向けの金属プレス成形品や、光通信用部品の製造に使用する機器や消耗品、光通信用部品の検査・測定装置等が想定以上に好調に推移しました。損益面では、採算性の良い製品の販売が想定を上回ったことや、金型、金属部品等の原価低減の取り組みの結果、原価率が改善し、営業利益は前回発表予想を大きく上回ることとなりました。営業外収益として見込んでいた補助金収入の計上が下期にずれ込んだものの、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも前回発表予想を上回ることとなりました。

なお、通期の業績予想につきましては、金属プレス成形品等の一部製品については、最終製品となるスマートフォン等の需要の振れ幅が大きく、不確実性が高いことから、前回発表予想を据え置いております。業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表させていただきます。

以 上